

学力向上に向けた取組

函館市立銭亀沢中学校

1 課題

- 授業力向上を目指した指導の工夫・改善
- 基礎的・基本的な知識や技能の定着と活用を目指す組織・体制づくり

2 課題解決の具体策

- ① 授業評価の実施（教師相互・生徒・保護者）
- ② 放課後や長期休業中における学習サポート体制（銭子屋）

3 取組の概要

① 授業評価

- * 月例の授業参観週間（月初めの週）の実施とその質の向上（教師の感想の交流等）を図る。
- * 年2回の生徒による全教科の授業評価。1回目は1学期末、2回目は2学期末に同じアンケート内容で実施。1回目の結果集計と分析したものを教科担当に戻し、2学期以降の「生徒が分かる楽しい授業」づくりに生かすことをねらいとした。2回目も同じアンケートで実施し、1学期の生徒の声を生かした授業づくりが出来たかを考察・自己評価し、さらなる改善を図る。
- * 保護者の授業アンケートは参観日に実施 →教科担任→授業改善に生かす。

② 学習サポート「銭子屋」

- * 放課後の銭子屋は、定期テスト前に多くの学年が行うようになった。普段の日も部活に入っていない生徒が担任に断って勉強する場面が多くなった。
- * 長期休業中の銭子屋は、休業前に各学年毎、実施日・時間・教科・対応する先生方等を事前に生徒・保護者に知らせ、実施。1, 2学年は休み中の課題（プリント）学習を中心に、3学年は受検科目・不得意教科の勉強を中心に実施。

▼ 冬季休業中の銭子屋（3年）



4 成果と課題

- 「銭子屋」＝「放課後・休み中の勉強会」という意識が定着してきた。
- 授業評価を定期的に取り入れることにより、教師が授業力向上に前向きに取り組むようになったり、生徒の実態に応じた授業の工夫を図るようになった。
- 銭子屋の成果と課題を明らかにし、改善点を探る。（学習習慣の確立へ）
- 授業評価の活用方法（教科毎のアンケート項目の改善等）を工夫して、生徒達の声により生きる指導方法のありかたを追求する。（校内研の活性化へ）